

委託事業実施内容報告書

平成23年度「生活者としての外国人」のための日本語教育事業

【日本語教室の設置運営】

受託団体名 地球っ子プロジェクト

1. 事業の趣旨・目的

外国人児童生徒（日本語を母語としない児童生徒）が、よりはやく日本の生活に慣れ、学校での学習活動や地域の行事に参加できるよう日本語の指導、支援を行う。具体的には毎週土曜日に「子ども日本語教室」を開催する。夏・冬休みは、通常教室と内容を変えて各3日と1日実施する。

2. 運営委員会の開催について

【概要】

開催日時	開催場所	出席者	議題	会議の概要
H23, 6, 17 16:00-17:30	船橋市役所 114 会議室	齋藤ひろみ 正本靖子 掛村利弘 浦和かほる 松川京子 安部恵美子 滝沢孝子	1. 委員紹介 2. 活動報告 3. 市内外国人児童生徒、国内の支援状況 4. 意見交換	2. 3月11日の震災後、帰国したままの子どももいるので、例年より少ない人数でのスタートとなった。今年度の日程と活動予定を報告した。夏休み教室は、学習テーマを「自然エネルギー・省エネ」として行う。 3. 船橋市の外国人児童・生徒の転入は今年度はないスタートとなった。 4. 齋藤准教授より当団体の子ども日本語教室は、派遣協力員としても継続的実践研修の場であること、学校環境とは異なる居場所の提供をしていることを、学校にもっと知ってもらう工夫をしたらどうかと提案があった。（ニュースレターの発行など）

H24, 2, 17 13:00-14:00	船橋市総合教育センター	正本靖子 掛村利弘 浦和かほる 松川京子 安部恵美子 滝沢孝子 野村則子	1. H23 年度活動報告 2. 船橋市の現状 3. 意見交換	1. 当会の2月時点までの活動報告を行った。 2. 教育委員会より：日本語の指導を必要とする児童生徒数が過去6年間で最も多い127名となった。約半数の62名を、派遣協力員が支援にあたっている。今年度地球っ子などから新たに派遣協力員に登録し、市の研修、授業見学に参加してもらい、潜在的な協力員数を増やした。 3. 当会の子どもたちによって作成されたニュースレターを新年度に市内の学校や、担当者に配布することが提案された。
---------------------------	-------------	--	---------------------------------------	---



3. 日本語教室の開催について

- (1) 講座名 子ども日本語教室
- (2) 開催場所 船橋市東部公民館
- (3) 学習目標 初歩の日本語の基礎、生活の日本語、学校の教科につながる日本語を習得する。言語活動を通して考える力、情報を得る力、友人との関係を築く力、自己表現する力を身につける
- (4) 使用した教材・リソース
『日本語学級』『にほんごをまなぼう』『ひろこさんのたのしいにほんご』
『こどものにほんご』『みんなの日本語 I, II』『絵でわかるかんたんかんじ 80、160、200』『国語の森 物語文、説明文』『小学校学年別算数文章題ドリル』
『レベル別日本語多読ライブラリー』『JSL 中学・高校生のための教科につながる

学習語彙・漢字』『小学校 JSL カリキュラム国語、社会、算数、理科』『小学校
学年別全教科プリント』、くもんの絵カード、ことわざカルタ、小中学校教科書、
自作の教材など

(5) 受講者の募集方法

1. 年度初めに教育委員会を通じて、市内小中学校校長、国際理解担当教員宛、当会のパンフレットを送付し、支援情報を案内した。
2. 教育委員会の転入窓口に参加のパンフレットを置き、転入時に紹介してもらった。
3. 国際交流協会の窓口に参加のパンフレットを置き、問い合わせに応じて紹介してもらった。
4. 成人の日本語教室のボランティア、学校派遣協力員に、研修会などを通じて当会の案内をした。
5. 夏休み教室についても、別途チラシを作成し、上記と同様の案内を行った。

(6) 受講者の総数 35人（夏休み教室のみの参加者11人を含む）

（出身・国籍別内訳：中国 21人、フィリピン 5人、ペルー 3人、ボリビア 1人、
ベトナム 2人、日本 2人、バングラデッシュ 1人）

(7) 開催時間数(回数) 契約期間内78時間／全82時間（38回／全40回）

(8) 日本語教室の具体的内容

回※	開催日時	時間数	受講者数	国籍・母語（人）	教授者 補助者 人数	内容
1	4月23日 9:45-11:45 以下同上	2	10	受講者35人の内 訳：中国（中国語） 21人、フィリピン （タガログ語）5 人、ペルー（スペ イン語、ポルトガ ル語）3人、ボリ ビア（スペイン語） 1人、ベトナム（英 語、日本語）2人、 日本（日本語）2人、 バングラデッシュ（ ベンガル語）1人	12	日本語の学習 年齢、学年、日本語のレ ベルに合わせて7～1 0のグループに分けて、 グループ毎に適した内 容を行った。 『にほんごをまなぼう』 『ひろこさんのたのし いにほんご』 『みんなの日本語』 『絵でわかるかんたん 漢字 80、160、200』 『JSL 中学・高校生の ための教科につなげる

						学習語彙・漢字』 小中学校 教科書など
2	5月7日	2	8	以下 日々出席者 が異なるので個別 の内訳は省略	1 1	以下 受講者に合わせて 変更があるので、グルー プ別の内容は省略
3	1 4日	2	7		8	
4	2 1日	2	9		1 1	
5	2 8日	2	1 3		1 2	
6	6月4日	2	5		1 2	
7	1 1日	2	7		9	
8	7月2日	2	9		1 0	
9	9日	2	8		1 0	
1 0	1 6日	2	1 2		1 1	
1 1	2 3日	2	1 2		1 1	夏休み教室 小学生と中学生2つの グループに分かれて、エ ネルギー、自然エネルギ ーについて、座学。エネ ルギー関係の漢字を覚 えて、団扇を作る
1 2	2 4日	2	9		1 0	同上 小学生は水電池、中学生 はコイルでモーター作 り
1 3	2 5日 9:00-13:00	4	1 6		1 0	同上 課外活動 千葉市科学館 行 き は 引 率 、 帰 り は 13:00 解散後、必要に応じて引 率 14:00 船橋着
1 4	9月3日 9:45-11:45 以下同上	2	1 3		1 0	日本語の学習
1 5	1 0日	2	7		6	以下同上
1 6	1 7日	2	1 2		9	
1 7	2 4日	2	1 3		9	
1 8	1 0月1日		1 3		1 0	

19	8日		15		11	
20	15日		11		10	
21	10月22日		10		9	
22	29日		10		9	
23	11月5日		15		9	
24	19日		11		9	
25	26日		12		9	
26	12月3日		10		11	
27	10日		14		10	
28	17日		12 (31)	()は公民館管区 からの行事参加者 (日本人)	10	冬休み教室 (東部公民 館ハッピーサタデー共 同開催) 漢字の習字と切 り絵を組み合わせで年 賀状作り
29	H24 1月7日		11		10	日本語の学習
30	14日		11		10	以下同上
31	21日		12		10	
32	28日		11		8	
33	2月4日		11		10	
34	18日		12		7	
35	25日		12		9	
36	3月3日		13		10	
37	10日		12		9	
38	17日		11		9	修了式 成果発表会 お 楽しみ会

(9) 特徴的な授業風景(2～3回分)

通常の授業より小中学生各1例ずつと、夏休み教室、冬休み教室を報告する

1. 小学生 入門(中国女 小4、小5)

3人の内1人が他の2人より来日が半年早く、日頃中国語で積極的に手助けをしている。

まず、日本地図の塗り絵を使って、県名を覚える作業を行った。ふりがなのある県名のリストから、番号の合った県を色分けした。好きな色の県名だけは授業中に覚えるようにした。

ー休憩ー

ワークシートを持って、となりのスーパーに行き、野菜の産地を記入した。スーパーの店員に「～はどこですか」「ナスはどれですか」など聞く練習も行った。

もどって、地図に野菜の産地である県のところに野菜の名前を書き入れた。
日頃「書く」ことが得意でない子も、調べ学習で身体を使うことで、積極的に単語
のレベルだが書いていた。覚えた色と別の色の県名を覚えてくるのを宿題にした。



写真左:小学生の産地調べ学習



写真右:中学生全体の授業風景

2. 中学生 初級前半(中国男 高1、中2、中3)

10時過ぎに3人揃う。

今日は3人で勉強することにBが一番戸惑っていた。「みんなの日本語1」1
9課161頁の富士山の文をリスニング、穴埋めプリントをした。S、Rは、
ほぼ記入できていた。Bが集中できず、書けなかった。20課普通体は、丁寧
体から普通体への変換を、順に口頭でやった。一番馴染みやすく、身近な言い
方なので、練習問題もとびとびに進め、終わらせた。162、163頁の復習
Cを、各自解き、答え合わせをした。1の助詞問題が、2,3間違いがあったが、
S、Rはほぼ正解だった。Bが時間的には早く終わったが、かなり助詞が不正解
だった。

—休憩—

3人机を離し、問題に取り組んだところ、それまでふざけていたS、Rがま
じめに集中し取り組んだ。単位のグループ分けを、カード使って行った。体積、
容積の単位が難しかったようだ。時間がなく、説明不足で終わった。

3. 夏休み教室

3-1 実施日時 平成23年7月23日(土)、24(日)、25日(月)午前

3-2. 実施場所 東部公民館および千葉市科学館

3-3. 日程

7月	時間	場所	カリキュラム
23日 (土)	09:45~11:45	東部公民館講 堂	1) エネルギーについて考える 2) 団扇に漢字を書いて 太陽熱で焦が してみる

24 日 (日)	09:00~13:00 (14:00)	東部公民館 第 2・3 集会 室	電気について考えるミニ実験 1) 水電池 2) モーター
25 日 (月)	09:45~11:45	千葉市科学館	地球環境、自然環境を中心に見学 プラネタリウム、ワークショップ

3-3. 参加児童・生徒とボランティアの内訳

参加児童・生徒 22 名(1 日でも参加した子ども)

2010 年 7 月	2 3 日 (土)	2 4 日 (日)	2 5 日 (月)
児童生徒	12	9	16
ボランティア	11	11	10
計	1	1	1
外部			
保護者	0	1	2

学年別

小 1	1
小 2	0
小 3	2
小 4	5
小 5	3
小 6	4
中 1	3
中 2	2
中 3	2
合計	22 名

国籍別

フィリピン	5
中国	7
ボリビア	1
ベトナム	2
バングラデッシュ	1
日本	3
ペルー	3
合計	22 名

3-4. 参加者の居住地の傾向

新京成線沿線 5 名、津田沼からバス路線 6 名、JR 線 9 名、歩き 2 名

3-5. プログラムの内容と実際

(1) 行事のねらい

東北関東大震災を受け、共通テーマを「エネルギーについて考える」とした。実験を通じて、エネルギーに関する日本語を学び、読む、聞く、話す、書く機会を設ける。活動の中で国籍、日本語のレベルを越えて助け合い、コミュニケーションをとる工夫をする姿勢を引き出す。

(2) グループ編成

震災の影響で参加者が少なかったので、小学生、中学生の2グループで行った。

(3) 全体のテーマ 「エネルギーについて考える」

テキストとして、プログラムを配布した。自然エネルギー、省エネについて、水電池、モーターの作り方、ワークシートなど。

(4) プログラムごとのグループ別活動の実際

1日目

小学生	・家の中で使われている電気製品を思い浮かべ、ワークシートに部屋別の電気製品を記入した。部屋の名称（台所、風呂場など）、電気製品の名称を知らない子がいたので、名称や、カタカナ表記などを同時に覚えた。他の子の発表を聞き、自分の気づかなかったものに気づき、次々と発見が広がったようだ。次に拡大したエネルギー図鑑の絵を全員で見ながら電気や他のエネルギーの使われ方を確認した。 ・自然エネルギーに関する漢字の書き方練習をワークシートで行い、団扇作りに備えた。
中学生	省エネ図鑑を利用して、自然エネルギーについて学んだ。 ・自己紹介を兼ねて、エネルギーを使っていると思う物を1つ発表。 ・「エネルギーとは」のプリントで：エネルギーを持っているもの、使っているものを見つけた。何のエネルギーを使っているかの説明も加えた。 <u>反省</u>：何のエネルギーがどうして動いているのかを考える時間をもち発表ができたなら良かった。 ・「電気の利用」のプリントで：計画停電の話をし、停電になったら、どうなりますか？」の質問の答えを順に発表 ・「電気は、どうやってつくるの？」のプリントで：「発電機」にはどんな種類があるか？の質問に「火力発電」「水力発電」「原子力発電」「風力発電」の答えが子供たちから出てきた。 ・「水力、火力、風力、波力は、どうしてできるか？」→「太陽エネルギー」があるから→「太陽がなかったら？」と話題を発展させた。 <u>反省</u>：ボランティアの配置も考慮して、プリントの説明文をもっと読み、語彙説明に時間を使えると良かった。 ・太陽からの自然エネルギーに関連する単語を、ワークシートに書く <u>観察</u>：学校での学習が理解できている子が、進んで説明をする姿勢がみられた。普段落ち着きのない子も、自分を表現する機会に落ち着きを取り戻したようだった。
全体活動	自然エネルギー関係の漢字を覚え、一つ選んで練習し、団扇に筆書きした。練習した漢字と実際1つ選んで団扇に書いた漢字が異なる子もいて、一つ選ぶという作業に個々の個性も感じられた。追加でワークシートに入れておいた「絆」という漢字を選んだ子もいた。虫眼鏡を使って書いた文字を焦がしてみた。太陽光を1点に集める角度調整に苦心していた

	ようだが、一旦煙りが出ると集中して作業できた。太陽光の力も実感できたようだ。
--	--

2日目

小学生	水電池を作って LED ライトをつける。コップの数と明るさの変化、塩を加えた結果を調べる。小学生なので、手順毎に隣で手をとって作業を行ったので、ホイルと炭の準備までは順調に行えた。来日直後の子には通訳もついた。リード線の接続の前には、プラスとマイナスを何回も復唱して確認し、覚えた。実験の手順を写真と説明文のカード合わせて確認し、実験結果をワークシートに記入した。実験の感想文を発表した。日本人の子どものしっかりした作文に、外国の子も刺激されていたようだ。来日直後の子も中国語で感想文を発表できて、参加した満足感があったようだ。
中学生	コイルでモーターを作る。コイルの巻き数と回転力を調べる。 コイルの巻き方、巻きはじめと終わりの線の出し方、安全ピン軸受けの位置が重要だったが、子どもの性格（正確さ、負けず嫌い、のみこみの速さ、作業の器用さ）によって、結果が変わった。失敗を通じて、成功させようという努力につながったようだ。失敗した原因、何を直したら成功したかが分かれば成果といえるだろう。 日本語力がまだ弱い子は口頭説明では、十分に理解できていないようで、8回巻、16回巻のコイル、巻き始め、終わりの線の出し方、位置でコイルの中心がズれるなど、悪戦苦闘した。写真だけでなく具体的な図を書いて丁寧に説明したほうが良かった。8回巻は、不安定ながらも回り、16回巻は回らず「なぜ、16回巻は、回らないのか？」考えている時、他の子から「中心が合っていない、エナメル線の磨きが足りない」とアドバイスが出たことは良かった。磨き、回すことに必死で、絵カード合わせて実験の流れを整理できたが、ワークシートで回転と巻き数の関係、ゆとりのある子が色紙をつけて回してみた様子など記録できなかった。
全体活動	小学生の作った水電池で中学生の作ったモーターを回したり、オルゴールを鳴らした。塩を入れてから時間が経ってしまったので、モーターの回転が少なかった。小学生と中学生の作業時間の連携をもう少し良くすれば良かった。総じて、子どもたちは実験に集中し、挑戦していた。

3日目 千葉市科学館

プラネタリウム	『星になったチロ』の物語を中心とした、千葉の星空の様子を学ぶ。
館内見学	目の錯覚のワークショップを中心に、リサイクル、自然環境などの展示を見学。

反省	プラネタリウムの時間を１１時～１２時にしたこと、ワークショップに参加したことで予約や待ち時間のロスがあったこと、昼食の場所が１２時に予約できなかったことなどで、細切れの自由時間であわただしくなってしまった。朝の引率、館内の点呼等、確実に時間を浪費しないで行う綿密な準備が必要だと感じた。
----	---

（５）総括

今回は大震災を学びにつなげることを目的として、エネルギーを実験によって体感してもらおうという企画だった。実験は、書いたり読んだりする学習と違い子どもたちの集中力にもつながり、よい結果を生んだようだ。外出の際の引率に関しては、個別の確認カード、口頭確認（集合、持ち物、連絡先を書いたもの）を行ったので、ほぼ時間通りに集合できたが、ある程度会話ができるようになっても、乗り換えのある交通機関を具体的に理解するのは難しい子がいることもわかった。これまでの経験から７月の夏休み初めは、帰国する子どもも多く、集まりが悪いのは予想できたが、そんな中でも３日目の科学館外出は多くの参加者があり、２日目の実験では、意欲的な学習の姿がみられたことは成果である。課題としては、日程を変更するなどして、もう少し多くの子どもたちが参加できるようにしたい。連絡事項を理解できたかどうかの確認は、本人に再現してもらい、通訳を使う、日本人の参加者といっしょに行動するなど、さらに徹底したい。神輿、科学館、プラネタリウム、フィールドアスレチック、動物公園等、課外活動も定着してきた。今回候補に挙げた、災害体験施設など今後も魅力的な課外活動とテーマを企画し、子どもたちが楽しみながら学べる行事にしていきたい。

４．冬休み教室

日時：１２月１７日 ９：３０—１２：００

場所：東部公民館 講堂

内容；東部公民館主催ハッピーサタデーの企画に協力し、共同開催
年賀状作り

参加者：管区の小学生３２名 地球っ子プロジェクトの子ども１１名

活動の実際：習字、切り絵、一筆龍の３つのグループに分かれて指導

グループの内容と個人差によりできあがり時間に差があって、移動に手間取ったが、時間内に各自５枚程度作成することができた。



写真左: 夏休み教室で、小学生の水電池作り



写真右: 冬休み教室で、一筆龍のグループの様子

4. 事業に対する評価について

(1) 当初の学習目標の達成状況

当教室の学習目標は、「初歩の日本語の基礎、生活の日本語、学校の教科につながる日本語を習得する。言語活動を通して考える力、情報を得る力、友人との関係を築く力、自己表現する力を身につける」である。目標の達成度は、個人差があるが、それぞれ受講開始より、よい状況で年度を終えている。発話を全くしなかった子が、自己表現するようになった、質問に対する返事しかなかった子が自分から生活の話をするようになった、後から入会した子どもの手助けをするようになったなどが観察されている（学習者の習得状況：バンドスケール参照）。また、教科につながる言語については達成度をはかるのは難しい。夏休み教室での理科、社会の言葉や指示の伝わり方、毎週の算数の文章題の理解度などから判断すると、漢字圏の子どもと非漢字圏の子どもとは、読みから入る子、聞くことから入る子の違いはあるが、一定の向上は見られた。中学3年生3名は、当教室では作文、面接の指導を中心に行い、県立高校2名、私立高校1名合格した。子どもたちの感想では、概ね当教室での学習に向上を認めている（その他参考資料：ニュースレター抜粋を参照）。

(2) 学習者の習得状況

当教室では、H19年に早稲田大学の川上郁夫教授の講習を受け、JSL バンドスケールを基準の一つとして、日本語能力の伸びの経過観察を行っている。学年、レベル別のグループに分けて学習し、担当支援者が個人個人の学習能力、態度、精神面の状態などを観察し、記録している。機能ごと伸び方が異なるため、学校のテストでの伸びと比例しないが、個人がどのような伸び、変化

があったか観察できた。日本語のテキストの問題を解くことが得意でも話をしない、テキストを順に読むのは苦手でも生活の話は積極的によくできる、環境に慣れず声ができなかった子が少しずつできるようになった、具体的に漢字が小学校3年レベルまで読めるようになったなど、それぞれ概ね+1～+3の伸びが認められた。全体的には漢字圏の子どもは、読んで理解することは速いが、発話・発音の上達が遅く、非漢字圏の子どもは、発話・発音の上達は速いが、教科書のよみと理解は漢字の理解に比例して遅い傾向がある。

地球っ子プロジェクト H23 年度バンドスケール（年度末まで在籍の子どものみ）

2011, 4						2011, 10				2012, 2				学習意欲、態度、進度、精神面、 会性、今後の課題						
グループ	氏 名	性	国/言語	学年	在日 年数	話す	聞く	書く	読む	話す	聞く	書く	読む		話す	聞く	書く	読む	利用教材	
1	1	Z	女	中国	小4	3	—	—	—	—	4	5	4	7	—	—	—	—	小3年国語、算数教科書、ドリル、国語の森、レベル別日本語多読ライブラリーなど	読み、書き、計算は学校でもついていたレベル。推測してわかろうとする力がある。語彙が十分でないので、話したことが的確に話せず、もどかしそうなおことがある。読書好きなので、語彙力の伸びは期待できる。日本で生活していく上でのマナーを習得して欲しい。
2	1	H	女	中国	小3	2		帰国中			5	6	5	6	7	7	7	7		話し好きなので、学校、家、自分のことなど言葉を駆使して話す。学年が上の子供がちょっといしょのグループだが、負けず嫌いで良く理解し、楽しそうに学んでいる。
3	1	A	男	フィリピン	小5	1.5	2	3	3	3	2	4	3	3	3	4	4	4	算数文章題、社会科教科書、漢字問題集、カルタなど	おとなしく、他の子に圧倒されているところがあるが、刺激となって大きな声が出るようになった。まじめで学習意欲もあるが、会話が増えるといふ。自ら進んで会話に参加するようになった。語彙も増え、文章に幅が出てきた。字をもう少し丁寧に書けると良い。
4	1	K	男	中国	6	2	2	4	2	5	3	5	3	6	6	7	6	7		ほとんどの生活場面で日本語が理解できる。内容を理解して読む力もある。話すときは考えながら声も小さい。11月から積極的に話すようになった。文字をていねいに書けるよう努力をしている。
5	1	S	男	ボリビア	6	2	2	2	2	2	2	2	3	3	3	3	3	4		複雑な会話では聞き直す事が多い。自分から積極的に質問することができるようになった。声が小さかったが、聴き取れる程度で話せるようになった。分かる漢字を使う努力をしている。語彙も増え、意欲も感じられる。シャイで余り自分を全面に出すタイプではないが、学習態度はまじめで習ったことはその場で一つ一つ覚えようと努力している。3年までの漢字の読みを修了。訓読みと音読みの両方をしっかり覚える努力をしている。書く学習に進みたい。
6	2	E	女	中国	小5	1月～	—	—	—	—	入会4	4	4	3	5	5	4	4		日常会話に不自由しないくらいになっているが、文法的には不正確。漢字は3年生程度まで80%くらい。
7	2	R	女	中国	小5	8月～	—	—	—	—	入会2	2	2	2	3	3	3	3	かんじだいすき日本地図、なぞなぞゲーム、ことわざカルタ、すごろく作りなどゲームを通じて日本語を使うようにしている	学習意欲あり。指示がはっきりしていれば自分で調べて学習できる。発音も良く、漢字の読みは3年生60%くらい。
8	2	T	女	中国	小4	7月～	—	—	—	—	入会1	1	1	1	2	2	2	2		文字を正確に書くことが好きでないが、わかることはきちんと書ける。中国人の仲間がいるので日本語の発音がなかなかできる。
9	3	C	男	中国	中1	9月～	—	—	—	—	入会2	2	2	3	3	3	4	3		簡単な質問に答えることはできるが、単語での発話のレベルで、文にならない。短い文を読んで理解することはできる。テキストの例に倣って単文を書くことができる。カタカナの聞き取り、漢字の日本語の書き方がまだできない
10	4	L	男	中国	小6	H24, 2月～	—	—	—	—	—	—	—	—	入会1	1	1	1	日本語入門セット	来日間もないので日本語ゼロレベルだが、興味はあるので前向きに取り組んでいる。ひらがな、カタカナは完全ではないもののしっかり入っている。語彙は物の名前から動詞まで全てゼロから。真面目で素直で明るい。
11	5	Q	男	中国	中3	3	5	6	4	5	6	7	4	5	6	8	4	6	受験のための作文指導、国語文法の確認	ほぼ正確に聴き取れる。細かい文法的な違いはあるが、自分の考えを伝えることができる。作文が苦手意識がある。発音の問題が多少ある。
12	6	N	女	中国	中1	2	—	—	—	—	—	—	—	—	4	4	4	4	みんなの日本語	頑張っている
13		U	女	中国	中2	2	—	—	—	—	—	—	—	—	3	3	3	3	中学教科書	助詞や中国語の影響からくる間違いをもう少し直せると良い
14	7	B	男	中国	中3	1.5	2	2	2	2	2	3	3	3	4	6	4	6	教科につなげる学習語彙ほか	口が重いが、こちらの話は理解している。1
15	7	K	女	フィリピン	中2	2	3	3	3	3	4	3	4	4	4	4	4	4		語彙が増え簡単な説明の理解、単純な質問
16	8	施 ショウイ	男	中国	中2	1.5													TOEFL中学・高校生のための教科につなげる学習語彙・漢字ドリルから英語、数学、新聞等から生教材	母語での基礎的な学力には問題無い日本語の語彙・表現力が不足。来年の高校受験までに集中して取り組む姿勢が望まれる。
17		黎	男	中国	高1	1.5					3	4	4	4	4	7	4	5	同上	母語での基礎的な学力には問題無い日本語の語彙・表現が高校レベルには不十分、一段の向上が望まれる。

(3) 日本語教室設置運営の効果、成果

今年度は H23.3.11 の震災の影響もあり、子どもの学校への転入そのものも少なかったため、新規の入会は少なかった。また、途中で帰国を決めた子どももいた。それでも、夏休み教室に参加して入会を決めた子が3名、学校派遣協力員からの勧めで入会した子が2名いた。震災後帰国していた子で夏以降当会に戻った子も2名いた。その他の退会理由としては、日本語が上達したので必要がなくなったことがあげられる。当会の存在の必要性が認められていることは成果と言えると思う。子どもたちの当会への期待度は年度末に成果発表として行ったニュースレターを参照されたい。

(4) 地域の関係者との連携による効果、成果等

a. 船橋市東部公民館

当会は公民館の社会教育関係団体として、公民館の協力を得られた。部屋の年間先行予約、備品の置き場所の提供などは、活動を安定して行うためには大きな支えとなった。また、公民館の主催行事であるハッピーサタデーに企画協力(年賀状作り)することで、外国人の子どもたちと管区の多くの日本人とが自然に接する機会を設けることができ、地域の保護者たちにも当会の存在を知ってもらうよい機会となった。

b. 船橋市教育委員会

市内の日本語指導を必要としている児童・生徒を最もよく把握しているのは教育委員会である。後援をいただき、その転入窓口で派遣協力員の支援の説明と同時に、来日後できるだけ早く日本語の学習を始められる当会のパンフレットを置き、紹介をしてもらうことができた。また、市内83の小中学校にもパンフレットを配ることもでき、学校での支援だけでは足りない場合などは紹介してもらえるルートができた。当会の会員の多くが学校派遣協力員に登録しており、研修会に参加することもでき情報交換ができた。本委託事業では教育委員会の先生方にも運営員になっていただいているので、情報交換を潤滑に行うことができた。

c. 船橋市国際交流協会

本協会は市内7カ所で成人の外国人のための日本語教室を開催している。後援をいただいて、養成講座を修了している約140名の日本語支援ボランティアに情報を発信することができた。また、協会は教育委員会の学校派遣協力員の派遣ボランティアの依頼の窓口にもなっていて、子どもの日本語指導にも関心が高い会員を発掘することができる。今後の潜在的な当会会員としても情報交換することができた。

d. 近隣の他市の団体

千葉県国際交流センター、松戸市、鎌ヶ谷市国際交流協会などの主催する研修会に参加することができた。また、当会からも研修会の案内を出すことができ、様々な観点から年少者の日本語支援について情報交換する機会がもてた。また、今年度は房総ボランティアネットワークの記念誌

に当会の活動の歴史を紹介することができた。

e. 専門家による研修

本委託事業の運営委員でもある、東京学芸大学の齋藤ひろみ准教授による研修をおこなった。テーマは、「社会科の授業につながる日本語指導—社会科のある単元を用いて指導方法を考える」JSLカリキュラムの考え方の概要の講義の後、表現文型から・内容から授業を組み立てる2つの方法のうち、内容から授業を組み立てる実習を行った。使用教材は、小5社会下「災害からくらしを守る」。ポスターセッションの後、ポスターを写真にとり、希望者に配布した。参加者からは、実践的で役に立ったとの感想をもらった。

また、齋藤准教授らが主催する「実践持ち寄り会」で、当会の夏休み教室の「年少者のための活動型・テーマ型学習」、グループ運営の仕方などを紹介する機会をいただいた。専門分野の先生方と意見交換もでき、大きな励みとなった。



写真左: 研修会講義風景



写真右: 研修会ワークショップ風景

(5) 改善点、今後の課題について

① 現状

基本的には、日本語のレベルを基準にしているが、できるだけ楽しくリラックスして学習できる環境を作るようにしている。日本語のレベルの他は、学年、性別、性格、学習習慣の違いなどを考慮している。1対1よりグループで、効率よりも効果を期待して学習を進めるようにしている。しかし子どもなので、なかなか意図が理解できないことも多く、効率(明日の点数)を気にする中学生と仲間との会話を楽しみにしている子で進行がうまくいかないこともある。時々担当の判断で、個人指導の時間を設けたり、壁に向かって集中力を高めたりする工夫をしながら進めている。小学生低中学年は楽しみながら日本語に慣れることがしやすいが、小学校高学年からは、将来が見えて保護者も焦りが感じられることがある。

② 今後の課題

子どもたちの学校や、家での様子を正確に知ることはできないが、少なくとも当教室での活動によって、少しでも日本の生活に早く慣れるようになって欲しい。特に中学生の将来(高校受験や仕事)に対する焦りは、落ち着いた学習ができず成果がでにくい。達成感、成功体験を多くし

て、日常生活、学校生活に積極的に関わっていく力をもてるような活動を工夫していきたい。また、学校との情報交換によって、教科の補習の仕方のアドバイスも得ていくことが必要だ。

③ 今後の活動予定, 展望

従来通りに、土曜日の午前中に定期的に日本語教室を開催し、一人一人に目の届く指導、支援をしていく。夏休み教室と冬休み教室を開催し、公開で多文化交流行事を行う。学校の中での日本語指導、教科補習、母語での対応支援と別に、補充できる部分は補充しながら地域の教室ならではの効果的な学習内容を研究していく。実践的研究の場としても将来の年少者の日本語教育のあり方に参考になればよいと思う。

(6) その他参考資料: ニュースレターより抜粋

T : は担当支援者の言葉

「中国から日本に来て」 C (中1男 中国)

去年僕は六月二十四日に中国の小学校を卒業して、九月一日に日本の中学校に入学しました。

日本に来て、中国と日本の学校は全然違うと思いました。中国の学校は朝八時から夜十時まで勉強します。でも日本の学校は、朝八時四十五分から午後五時くらいで終わり、部活があります。中国の学校の方が日本より勉強の時間が長いです。だから中国の子供は大変だと思いました。

土曜日は日本語教室に来ています。日本語教室では、たくさんの外国人の子供が勉強をしています。僕と同じ中国人の友だちもたくさんいて、日本の生活のことを教えてもらったり、中国語で話したりできるので楽しいです。

これからも日本語を頑張って勉強をしようと思います。

T : 中国ではすらすらと覚えていたことも、日本語で学習すると勝手が違って大変ですね。でもめげずに明るく、そして果敢に挑戦している前向きな姿勢がいつか実を結ぶ日が来ると信じています。教室でのとぼけた味も余裕の表われかな？ほのぼのにっこり笑顔は値千金ですよ。

「地球っ子日本語教室」 V (中2女 フィリピン)

私はフィリピンから来た中学二年生です。毎週土曜日に日本語教室で勉強していますが、いつもとても楽しいです。日本語教室に来る度に新しい言葉を覚えるからです。教室は明るい雰囲気です。先生たちは優しく、面白いです。分からないことがあるとき、分かるまで何度も何度も丁寧に説明してくれます。先生はいつも優しいですが、私のために少しだけ厳しい時もあります。きびしくしないとちゃんと勉強できないからです。休憩時間には先生たちが私の悩みや話をちゃんと聞いてアドバイスをしてくれます。

この教室では、日本語が上手じゃなくても先生たちは誰も面倒くさがらずに、りかいしようとしてくれるので、プレッシャーがないです。私は話すこと、聞くこと、読むことは

自信があります。漢字もたくさん覚えました。でも、書くことは自信ありません。特に、作文、感想文が苦手です。だからこれからは、作文と感想文を書く練習をしっかりとしていきたいと思います。

「地球っ子のこと」 T (小5女 中国)

学校の友だちは優しい子がいます。その理由は、学校にいっしょに行ったり、帰ったり、遊んだり宿題をいっしょにしたりします。一番優しい子はYとSです。学校にはステキな子もいっぱいいます。その理由は、クラスの男の子はサッカーをしたり、野球したり、卓球したり、とてもステキです。

地球っ子の友だちもいっぱいいます！！日本語の勉強をしたり、食べ物もいっぱいあります。たとえば、そうちゃんと、てんちゃんと、アアくんと、セイくんなど。みんなと一緒に勉強は楽しかったです！！一人で勉強するのはつまらないです。

「日本語を覚えた道」 K (小6男 ボリビア)

僕は4年生の春にボリビアから日本に来ました。

来た時は、日本語が分かりませんでした。テレビを見て言葉を覚えたり、絵と漢字のセットで漢字を覚えたりしました。

火曜日には学校で日本語の勉強をしています。そして、土曜日は地球っ子で日本語の勉強をしています。学校の宿題もしています。学校の授業では、算数と理科が楽しいです。地球っ子の友だちや先生と話をしたり、勉強するのが楽しいです。地球っ子の勉強はゆっくりわかりやすくていいです。

地球っ子に来るとき、最初はお父さんに言われて来たけれど、今は自分から進んで来ます。これからもっと頑張りたいと思います。日本語と漢字を覚えるようにがんばります。

「漫画との出会い」 Y (中3女 中国)

今年でついに来日四年目となりました。日本語ができるようになった！と胸を張れるようになったのは、たぶん二年目に入ったときだと思います。この日本語教室には、もう教わる事を目的には来ていません。自分ではあまり思えませんが、人にはいつも習得が速い、どうやったのと聞かれます。自分でそう思っていないので、もちろん答えもわかりません。

それでも言えること、人と違う、これはやったよ、ということがあります。漫画に手を出したんです。生活用語もあまり分かっていないときに漫画を買いました。そして、当然のようにアニメもめちゃくちゃ見ていました。それから意味もわからないテレビ番組を見ました。自分から積極的に関わろうと、日本語を覚えようとした事が他の人との違いだと思います。なかなか覚えられない子は、日本に来て母国語を使って、同じ国から来た子とかたまって遊んでいるんです。私は来日してすぐ一般の学校に入って、日本人の子と一緒に勉強して、話そう、仲良くなろうとしたんです。

わかりやすくいうと、心持ちなんですね。覚えなきゃ、しゃべれるようにならなきゃ生きていけないと思うことです。人の思うことに文句をつけるつもりはありませんが、日本

に来たから日本語を覚えなきゃ始まりませんものね。つまり、単語、文法を覚えようとする
ことが基本だから、それすらやらない人はどうしようもないんです。

T：好きなことから入るのに成功したんですね。漫画ばかり読んでいるようにみえるけど、多分時間の使い方が上手。だから人が見ていないところで文法の教科書をしっかり読んでいる。「心持ち」良い言葉ですね。

以上